

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
愛知ペット専門学校		平成20年2月22日	牧 良	〒 444-0007 (住所) 愛知県岡崎市大平町川田58-1 (電話) 0564-64-7225			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人アイピーシー学園		平成20年2月22日	牧 良	〒 444-0007 (住所) 愛知県岡崎市大平町川田58-1 (電話) 0564-64-7225			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護科	平成20(2008)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	動物看護科は主に動物病院に従事する有能な人材育成をする為に必要な知識・技術を学ぶことを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	■取得可能な資格:NAVAペットケアアドバイザー、損害保険募集人資格、愛玩動物飼養管理士、ZPK家庭動物管理士、愛玩動物看護師国家資格、IPCライセンスなど ■中退率: 2%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,280 単位時間	735 単位時間	225 単位時間	1,320 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
20人	25人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		24	人			
	■就職希望者数(D)		22	人			
	■就職者数(E)		22	人			
	■地元就職者数(F)		18	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		81	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		91	%			
	■進学者数		2	人			
	■その他						
	なし						
(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等							
(令和4年度卒業生)							
へきなん動物病院、まさき動物病院、りんごの樹動物病院など動物病院							
リコージャパン株式会社などの関連外2名							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無				
	※有の場合、例えば以下について任意記載						
	評価団体: -	受審年月: -	評価結果を掲載したホームページURL -				
当該学科のホームページURL	http://aichipet.com/?p=2032						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)						
	総授業時数						2,280 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						600 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数						0 単位時間
	うち必修授業時数						600 単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						600 単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						0 単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						45 単位時間
	(B:単位数による算定)						
	総授業時数						単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						単位
	うち企業等と連携した演習の授業時数						単位
	うち必修授業時数						単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						単位
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						単位
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						単位
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			2人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			0人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			1人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			0人	
	計					3人	
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3人	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年ペット産業を取り巻く分野において、めまぐるしく変化し、且つ進化し続ける市場を背景に、学校教育法(第124条)における「専修学校の目的」に鑑み、その専門分野において市場が求める実践的な知識・技術・技能を十分に認知するべく本学科が目指す職業教育に関連した企業と組織的に連携して必要十分な授業科目を創設していくこととし、またその実施に当たっては、当該専門課程の教育にふさわしい授業方法への改善・工夫を行った上で教育課程を編成することとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

動物看護科が目指す職業教育における関連事業の企業と連携し、同企業より当該過程に関連する専門分野に精通した各役職者等を構成員とした「教育課程編成委員会」を学校内に組織し、委員会の方針に沿って科長が編成を行い、学校長の許可を得てから当年度の実施及び履行がなされるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
脇田 亮治	一般社団法人全国ペット協会 専務理事	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	①
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	③
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部长	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	③
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理次長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	③
川瀬 理英子	株式会社アイピーシー ペットコミュニティプラザ日進店副係長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年目)	③
上 舞子	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任補佐	令和5年4月1日～令和6年3月31日(2年目)	③
牧 良	愛知ペット専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	—
栗田 晶子	愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	—
細川 綾子	愛知ペット専門学校 ペットトリマー科科長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	—
東 晃司	愛知ペット専門学校 ペットアドバイザー科科長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	—
長坂 清美	愛知ペット専門学校 動物看護科科長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(4年目)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月24日 14:00～15:00

第2回 令和6年3月21日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「来年度も講師の皆さんと協力して、学生のモチベーションを更にあげていきたい」というご意見を受け、飼育実習内の担当犬飼育実践内で、学生の動物専門基礎力、共有ゾーンの美化意識の向上を目的に指導強化を図るあいさつの強化を図り、対人コミュニケーション力を上げる

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット産業界が求める知識及び技能を的確に反映すると共に、社会人としての基礎能力の向上を重視した教育を行う為、積極的に企業等へ学習活動の協力を求め、より実践的な専門性の確保を目的として学習機会（企業内実習、企業参加の学内実習活動等）を設定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と学校の打ち合わせ等により企業やペット業界のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、企業からの派遣講師による授業の実施または企業等における実習等を実施する。学生はその日に受けた指導内容、自己評価等を実習日誌等に記載、定期的に学校の教員が確認し、必要に応じて研修や試験等を実施する。さらに企業と事前に打ち合わせた基準あるいは評価に基づき、学校の教員が成績評価及び単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	株式会社アイピーシー
飼育管理実習Ⅰ	わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	株式会社アイピーシー
動物看護実習Ⅰ	わんわん動物園から生体の提供を受け、投薬方法、薬浴等実際の生体を使用し行うことで技術力の向上を図る。	株式会社アイピーシー
院内コミュニケーション	学生等をオーナー、わんわん動物園保有する生体を患者動物と見立て、問診、診療補助、薬説明等を行うことで技術力の向上を図る。	株式会社アイピーシー
動物看護学総合実習	実際の動物病院等で実習を行うことで、より実践的な技術・知識を習得する。	宇野獣医科病院、アロハ動物病院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。例えば、本学科においては犬猫等の病気に関わる最新の解剖生理学や健康管理学に関わる知識、又動物病院の商品・経営・診療に関わる知識等を得るため、積極的に勉強会や研修を実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 病院業務実務実習

連携企業等: 株式会社アイピーシー

期間: 令和4年4月15～令和4年5月31日

対象: 専科教員

内容 わんわん動物園から生体の提供を受け、生体の扱い方、薬の扱い方、衛生管理方法、疾病管理方法等を学んだ。

研修名: 指導力強化研修

連携企業等: 株式会社アイピーシー

期間: 令和4年4月15～令和5年5月31日

対象: 専科教員

内容 学生の指導方法や生体管理方法について、わんわん動物園スタッフと話し合いを行い、学生の社会人マナー・生体の扱い方へのアドバイスを受けた。

研修名: セミナー研修

連携企業等: 株式会社アイピーシー

期間: 令和4年11月19日、20日

対象: 専科教員

内容 外部で行っているセミナーに参加し、最新の技術や知識を広げた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教職員研修会

連携企業等: 株式会社アイピーシー

期間: 令和4年4月～令和5年3月(月2～3回)

対象: 全教職員

内容 動物愛護法改訂に基づく動物の管理方法、美化の意識づけ、書類管理の合理化、節電のアクションプランなど

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	病院業務実務実習	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和5年4月1日～令和6年3月を予定	対象:	専科教員
内容	わんわん動物園から生体の提供を受け、生体の扱い方、薬の扱い方、衛生管理方法、疾病管理方法等を学ぶ。		
研修名:	セミナー研修	連携企業等:	動物臨床医学会
期間:	令和5年11月18日、19日を予定	対象:	専科教員
内容	外部で行っているセミナーに参加し、最新の技術や知識を広げる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教職員研修会	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和5年4月～令和6年3月	対象:	全教職員
内容	動物の管理法、書類の合理化、ほか必要性を感じるテーマで開催予定		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当該専門課程の教育にふさわしい教育活動が実施されたことに対する成果を検証し、必要な改善を速やかに行うことで教育水準の向上を図ることが重要である。また、学校教育活動に対しペット産業に関わる企業や保護者などと連携し意見を積極的に汲み取ることで相互理解の促進を図り、教育活動の改善と発展を推し進める。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか 等
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか 等
(3) 教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている
(4) 学修成果	・就職率の向上は図られているか 等
(5) 学生支援	・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 等
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか 等
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 等
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

問題なく進められている。新卒者に求めるのは、専門職以上に社会人マナー、コミュニケーション力であるため、さらなるレベル向上を期待する。との意見を受け、日々の授業で笑顔と元気な声で挨拶ができるかどうか、慣れない人＝お客様に対してできるかどうかなどの学習目標や目的などを指導していくようにする。また、講師自らが学生に対してあいさつし、コミュニケーションを深めるよう働きかける。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	企業等委員
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	企業等委員
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理部次長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(11年目)	企業等委員
川瀬 理英子	株式会社アイピーシー ペットコミュニティプラザ日進店 副係長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年目)	企業等委員
上 舞子	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任補佐	令和5年4月1日～令和6年3月31日(2年目)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://aichipet.com/wp-content/uploads/koukai/202306gakkouhyouka01.pdf>

公表時期: 令和5年6月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当該専門課程の教育活動が実施されたことに対する活動及び成果について連携企業及び保護者や地域住民に対しわかりやすく示し、情報提供を行うことで学校としての説明責任を果たすとともに相互の理解を深め、連携の促進を図る。また、情報の共有による連携協力の促進を通じて、学校・企業・家庭それぞれの意見が反映され、教育力が高められることを期待する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・所在地、連絡先、校長名 等
(2) 各学科等の教育	・各学科の定員数、入学者数、在生徒数 等
(3) 教職員	・教職員数(職名別) 等
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 等
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 等
(6) 学生の生活支援	・学生相談に関する体制 等
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) 等
(8) 学校の財務	・貸借対照表、収支計算書 等
(9) 学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 等
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://aichipet.com/wp-content/uploads/koukai/202306gakkouhyouka01.pdf>

公表時期: 令和5年6月

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ペット一般教養 I	就職セミナー（業界の就活事情、社会人としての心構え、履歴書の書き方、自己分析の方法等）	1後	15	1	○			○		○		
2	○			特別活動 I	スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力等を養う。	1通	60	2				○	○	△		○
3	○			共通基礎	犬との接し方や犬具等道具の扱い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な習性や生理等について学ぶ。	1前	60	2	△			○	○	△		○
4	○			各科実習	所属する部科に関わらず、ペット美容、しつけ訓練、動物看護、飼育繁殖の基礎を学ぶ。	1前	60	2	△			○	△	○		○
5	○			動物形態機能学 I	主に犬猫を中心に動物の体の構造、筋骨格系等の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1前	30	2	○			○				○
6	○			動物感染症学 I	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	1通	30	2	○			○				○
7	○			動物健康管理	健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導に活かす。	1前	15	1	○			○				○
8	○			動物医療関連法規 I	動物愛護及び管理に関する法律における責務と規制事項を理解し、動物福祉と人との共生の観点から関連法を学ぶ。	1前	15	1	○			○				○
9	○			動物行動学	犬猫の基本的な行動様式と学習方法を知る。又、犬種ごとの特徴、沿革などを知ることによって犬種ごとの対応方法などについても学ぶ。	1前	30	2	○			○				○
10	○			伴侶動物 I	犬以外の伴侶動物、エキゾチックアニマルや猫の生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解する。	1後	30	2	○			○				○
11	○			公衆衛生学	人と動物との間に感染する疾患、その治療法や予防法、滅菌や消毒について学ぶ。	1後	30	2		○	△	○				○
12	○			動物人間関係学	ヒューマンアニマルボンドや動物介在福祉、飼い主への対応方法などについて学ぶ。	1後	30	2	○	△	△	○				○

13	○		動物臨床検査学	各種検査方法の使用道具、注意点、検査方法、検体採取方法などを学ぶ。	1後	60	4		○	△	○	○					
14	○		動物医療コミュニケーションⅠ	飼主対応、スタッフ同士のコミュニケーション方法等を学ぶ。	1後	15	1		○	△	○	○					
15	○		野生動物	生態系における野生動物の位置づけ、野生動物の現状などについて学ぶ。	1後	30	2		○	△	○	○					
16	○		動物福祉・倫理	獣医学倫理や動物の福祉について学ぶ。	1後	30	2	○		△	○	○					
17	○		伴侶動物Ⅱ	エキゾチックアニマルの形態機能、疾患、治療方法などについて学ぶ。	1後	30	2	○		△	○	○					
18	○		動物臨床看護学総論Ⅰ	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1後	15	1		○	△	○	○					
19	○		インターンシップ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	1通	30	1				○	○	○	○	○	○	○
20	○		飼育管理実習Ⅰ	わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	1通	90	3				○	○	○	○	○	○	○
21	○		動物飼育実習Ⅰ	わんわん動物園から生体提供を受けた担当犬に対する衛生管理を動物園業務と直結した指導教育に取り組む。	1前	45	1				○	○	○	○	○	○	○
22	○		動物飼育実習Ⅱ	今の時代にあった展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常のケア等を通じて生体を扱う基礎力を養う。	1前	90	3				○	○	○	○	○	○	○
23	○		院内コミュニケーション	受付業務、診療補助、スタッフコミュニケーション、クライアントコミュニケーションを学び、実践する。	1後	75	2	△			○	○	△	○	△	○	○
24	○		動物内科看護学実習	看護方法の実践、輸液管理や調剤、薬浴などの薬の扱いも学んでいく。	1後	90	2				○	○	○	○	△	○	○
25	○		ペット一般教養Ⅱ	就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説	2通	30	2	○			○	○	○	○	○	○	○
26	○		特別活動Ⅱ	主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。	2通	60	2				○	○	△	○	○	○	○
27	○		ゼミナール	卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。	2通	30	2	△	○		○	○	○	○	○	○	○

43	○		産業動物	産業動物の歴史や品種、飼養管理方法、および畜産業など社会とのかかわりについて学ぶ。	2通	45	3	○			○			○	
44	○		実験動物	実験動物の歴史や品種、飼育管理方法、動物実験とのかかわりについて学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
45	○		動物看護総合実習	実際の動物病院などで実習を行うことで、より全的な技術、知識の習得を目指す。	2通	180	6				○	○	△	○	○
合計						45	科目	107 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 2年以上在学し、総授業時数の3分の2以上の履修を前提に各授業科目の成績評価に基づく課程修了の認定を受けた者		1学年の学期区分	2期
履修方法： 原則的に、教育課程表に定められている年次で履修する。		1学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。